

## Ⅲ 図書館・行政

### 1. 施設

#### (1) 主な取組み

- ① 乳幼児と一緒に来館しやすいよう、設備のPRの強化
- ② 利用しやすい図書館づくり（配架工夫やレイアウトの改善、展示など）

#### (2) 成果

##### 【各図書館の取組み】

各図書館では、児童コーナーの中に子育て情報コーナーを作り、子ども服や離乳食、子育ての本などを集めたり、子どもの本に関する書籍やむかしばなし絵本を別置するなど、工夫しています。



（深沢図書館の子育て情報コーナー）

深沢図書館では、児童コーナーの中に、子育て情報コーナーを作り、子どもが本を読んでいるときに、保護者が本を手に取りやすい場所を作りました。

#### (3) 課題

○ブックスタートのアンケート結果から、設備の不便さよりも周囲の利用者へ気兼ねして図書館を利用しにくいと回答している保護者が多いことがわかりました。よりいっそう乳幼児と来館しやすい雰囲気作りやPRに力をいれていくことが課題です。

○地域館では、同じフロアに授乳やおむつ替えのできる場所を確保することは難しく、建物内での案内にとどまりましたが、よりすみやかに誘導できるよう日頃からPRしていくことが、必要となります。

○各図書館、要望に合わせ、むかしばなしの別置などを行っていますが、今後も常に新しい視点でレイアウトの変更などを行っていく必要があります。

## 2. 資料

### (1) 主な取組み

- ① 図書館の蔵書数、蔵書内容の充実

### (2) 成果

【蔵書数、蔵書内容の充実】

児童書の蔵書数は、平成24年度111,351冊から平成28年度120,786冊へ増加しています（「鎌倉市の図書館」より）。

年に1度、各館の児童担当者はブックフェアに行き、本の中身を手にとって確認しながら選書をする機会を設けるなど、より良い本を子どもの手へ渡せるよう検討して、蔵書の充実に努めています。

	全館児童書冊数	中央図書館	腰越図書館	深沢図書館	大船図書館	玉縄図書館	団体貸出
平成25年	112,715	29,394	19,118	19,548	18,950	18,450	7,255
平成26年	114,484	30,045	19,234	27,150	19,297	18,758	
平成27年	118,899	31,396	19,950	28,066	19,858	19,629	
平成28年	120,786	31,554	20,334	28,480	20,144	20,274	

団体貸出は平成26年度をもって廃止され、その児童書は深沢図書館の学校貸出へと引き継がれました。

### **(3) 課題**

- 資料費が減少傾向にあるなか、リクエストを各館で共有しながら、選書していくシステム作りが課題となります。
- 寄贈本も活用し、魅力ある蔵書構成としていく必要があります。

## **3. 読書相談**

### **(1) 主な取組み**

- ① リクエストへの対応・レファレンス（調べ物や読書相談）への対応の充実

### **(2) 成果**

#### **【読みたい本のある蔵書づくり】**

子どもたちからのリクエストを参考にしながら、選書を行い、読みたい本があり、調べたいことがわかる蔵書づくりを行っています。

### **(3) 課題**

- 子どもからの直接的なリクエストは少ないので、一日図書館員、職場体験活動、子どもの読書週間のときの展示を利用して、子どもたちの声を集めていくことが、必要となります。

## 4. 行事

### (1) 主な取組み

- ① 子どもと本をつなぐ行事の充実（おはなし会、ブックトーク、一日図書館員など）
- ② 職場体験活動などを通して図書館に親しむ機会を提供
- ③ ヤングアダルト対象の行事の開催

### (2) 成果

#### 【子どもと本をつなぐ行事の充実】

各館月に1回定例で行われていた一人でおはなしをきくことができる4歳以上の「おはなし会」、2・3歳と保護者向けの「おひざにだっこのおはなしかい」に加え、要望が多かった「あかちゃんと楽しむおはなしかい」を、平成25年からは定例としました。

それ以外にも毎年、数多くの行事を行っています。

- 平成25年～ むいぐるみのおとまり会（例年開催中）  
あかちゃんと楽しむおはなしかい（全館定例開催へ）  
としょかんいんになってみよう（毎年夏休みに開催）
- 平成25年 布えほんであそぼう！
- 平成26年 おりがみ教室、布えほんであそぼう、図書館自動車の愛称募集、  
スペイン語のおはなし会、世界のわらべうた大会、  
こども紙芝居まつり
- 平成27年 こんなとき、こんな絵本、手話付きおはなし会、  
なにか？ふしぎな！おはなし会、本の森コンサート、多文化おはなし会、  
伊藤正道氏絵本原画展、いのちをささえるほん
- 平成28年 親子で楽しむ「松谷みよ子の世界」、紙芝居大会



(世界のわらべうた大会)



(伊藤正道氏原画展 F☆L104)



(ぬいぐるみのおとまり会)



(としょかんいんになってみよう)

### 【職場体験活動】

図書館見学や中学生の職場体験活動、高校生のインターンシップの受入を行っています。

(ある日の職場体験内容)

図書館見学		
平成25年	13回	1106名
平成26年	15回	794名
平成27年	5回	461名
平成28年	10回	577名
職場体験 インターンシップ		
平成25年	15回	47名
平成26年	15回	47名
平成27年	20回	54名
平成28年	15回	76名

時間	実 習 内 容
8:30	朝の打合せ
8:40	開館準備
9:00	開館
	鎌倉駅ブックポスト処理
10:00	休憩
10:15	児童サービスとは～ あかちゃんと楽しむおはなしかい
11:50	2階返本、書架整理
12:00	昼休み
13:00	障がい者サービス
14:00	郷土・レファレンス
14:50	まとめ (質疑応答)

### 【ヤングアダルトを対象とした講座やイベント】

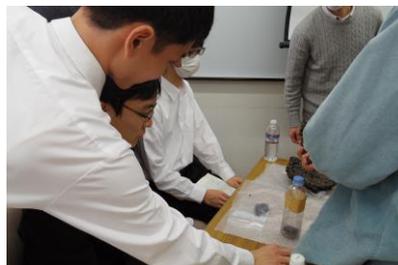
平成25年 高校生によるおはなし会

平成28年 夏目漱石生誕150周年「夏目漱石の作品の帯をつくろう」

サイエンスカフェ「鎌倉高校に聞く！たたら製鉄のなぞを追う」



(夏目漱石作品の帯をつくろう)



(鎌倉高校に聞く！たたら製鉄のなぞを追う)

## (3) 課題

○今後も魅力ある行事の充実につとめていく必要があります。利用の少ない行事については、土日開催などもして、利用者のニーズに合わせていくことが課題となります。

○引き続き、中高生の意欲を引き出すような行事を検討していくことが課題となります。

## 5. 訪問サービス

### (1) 主な取組み

子育てグループや幼稚園・認定こども園・保育園、小・中・高等学校、市内各施設へのおはなし会・ブックトーク・図書館活用講座などの訪問サービスの実施とPRの充実

### (2) 成果

前掲(P. 第3章 1家庭・地域 [読書へのきっかけづくり]2成果【図書館以外でのおはなし会】)しております。

### (3) 課題

- 現在訪問していない施設へもこのようなサービスがあることを引き続きPRしていく必要があります。
- 訪問サービスが拡大していくなかで、訪問サービスに行く人材育成、また図書館がボランティアと訪問先との架け橋となるような支援を検討していくのが課題となります。

## 6. 人材育成

### (1) 主な取組み

- ① 乳幼児・児童・ヤングアダルトサービスにおける図書館司書の専門性の向上
- ② 司書教諭をはじめとする教職員・学校司書・ボランティア対象の研修・支援の充実
- ③ 読書活動を推進するボランティアの養成講座開催
- ④ 保護者・幼稚園教諭・保育教諭・保育士を対象とした、ニーズに合わせた講座の開催

### (2) 成果

#### 【図書館司書の専門性の向上】

平成25年度及び28年度に、日本図書館協会開催の「児童図書館員専門養成講座」に職員が1名ずつ出席しました。前期6日間、後期9日間の長期にわたる研修で、児童図書館員としての専門性の向上をはかる研修となりました。

#### 【読書活動推進員・学校図書館専門員への研修】

読書活動推進員・学校図書館専門員への研修を年に2回行っています。

平成25年	第1回	学習パック、国会図書館ジャパンマークの利用について
	第2回	おすすめの本（本のポップ）作成について
平成26年	第1回	絵本の読み聞かせ講座、はじめてのよみもの
	第2回	学校図書館の除籍について
平成27年	第1回	図書データの学校図書館での活用
	第2回	情報交換・読書活動推進の工夫について
平成28年	第1回	除籍について
	第2回	選書について・調べ物に役立つ本

また、市内小中学校教員対象の実務研修を夏休みに行っております。

(平成25年度の実務研修内容)

1 日目	午前	図書館概要説明	館内見学
		鎌倉市子ども読書推進計画について	
	午後	絵本の読み聞かせについて	
		読み聞かせ実習	
2 日目	午前	参考郷土資料の紹介	
		調べもの用パスファインダーとは	
	午後	学校図書館と調べ学習	
		調査実習	
3 日目	午前	鎌倉の近代史資料について	
	午後	図書の補修実習	
		著作権について	
		意見交換	

平成28年度より2日間の研修となりました。

#### 【おはなしボランティア養成講座】

平成13年から始まった、図書館や地域で絵本の読み聞かせなどを行うボランティアの方向けの講座を毎年秋に行っています。修了生はのべ280名を越え、図書館をはじめとする地域の場所で活躍しています。

第1回	おはなしボランティアをはじめよう
	絵本の読み聞かせ
第2回	紙芝居
	わらべうた
第3回	パネルシアター
	ストーリーテリング
第4回	受講生による発表会

また、卒業した方を対象に、毎年2月にステップアップ講座を行い、スキルアップの場を設けています。

平成25年	ブックスタートとおひざにだっこのおはなしかい
平成26年	0歳児の発達について／紙芝居のはなし
平成27年	子どもの発育・発達について
平成28年	おはなし会実演（ブックスタートと訪問サービス）／わらべうた

#### 【幼稚園教諭・保育教諭・保育士への講座】

第1次計画策定の際から、企画予定だった幼稚園教諭・保育教諭・保育士への講座を平成27年度に初めて開催いたしました。

平成27年	絵本の読み聞かせ
平成28年	わらべうた

### （3）課題

- 図書館司書の専門性を向上させるべく、研修に参加したり、勉強会を行うなどして、今後もスキルアップを目指していく必要があります。
- 子どもの読書活動推進に関わる大人たちの意識啓発に努め、今後も研修や講座の開催を継続していく必要があります。

## 7. 連携

### （1）主な取組み

- ① 「かまくら読書活動支援センター」の機能及び支援情報のPRの充実
- ② 「鎌倉市子ども読書活動推進連絡会」の充実
- ③ 「子ども読書パック」（幼稚園・認定こども園・保育園・学校等へ読み物を中心とした本をセットにした貸出サービス）のPRと資料の充実
- ④ ボランティア同士の情報交換の場の設定
- ⑤ 「学習パック」（活用頻度の高いテーマの関連した本を集め、必要とする学校への貸出サービス）のPRと資料の充実

## (2) 成果

### 【鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議の充実】

第2次計画まで「鎌倉市子ども読書活動推進連絡会」が担っていた機能を発展させ、平成29年度には「鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議」が開催されました。計画の策定を行い、進捗状況を確認・検証し、情報交換を行う場として、さらなる充実をめざしています。

### 【「子ども読書パック」のPRと資料の充実】

小学校や保育園のほかにも、平成28年度からは子ども会館の長期休みの際の利用があり、PRができています。寄贈本も活用しつつ、蔵書の充実をはかっています。

### 【「本の海サポーターズ交流会」の開催】

鎌倉市で子どもと本をつなぐ活動を行っている方向けの情報交換会として、毎年「本の海サポーターズ交流会」が行われています。1時間程度の講座のあと、参加者同士の情報交換の時間を取っています。

平成25年	活動の事例発表
平成26年	ひろげよう！子どもと本のすてきな出会い～科学読物を通して～
平成27年	戦後七十年子どもたちに伝えてほしいこと 和歌山静子
平成28年	わらべうた講習会
平成29年	ブックトーク ～おはなし会の年齢に応じて～

### 【「学習パック」のPRと資料の充実】

平成29年度には、小学校へのPRが行き届き、全公立小学校で「日光」の学習パックの貸出がありました。しかし、公立中学校の利用が少ないため、中学生向けの学習パックを充実させ、中学校へのPRも行っています。

### **(3) 課題**

- かまくら読書活動支援センターで学習パックや子ども読書パックの支援を行うことで、小中学校との信頼関係も強固なものになってきましたが、これをさらに発展させ、高等学校とどのように連携できるのか、模索していく必要があります。
- ボランティア同士の情報交換の場を設けていますが、情報交換にとどまっているため、ボランティアのニーズの把握と解決策を示していける体制作りを検討するのが課題です。

## **8. 地域性を活かして**

### **(1) 主な取組み**

- ① 子ども向け地域資料の充実（近代史資料室の子ども向けサービスを考案するなど）
- ② 地域性を生かした本の紹介リスト（世界遺産、緑地保存など）の作成
- ③ 図書館まつりの開催
- ④ 鎌倉らしいイベントの企画（鎌倉市の世界遺産登録関連等）や地元書店  
・地元出版社との連携の充実

### **(2) 成果**

#### **【子ども向け地域資料の充実】**

学習パックで「鎌倉」を作成し、小学校高学年から中学生まで幅広い郷土学習に用いられています。また、県内の町村より郷土の副読本を資料として収集し、県内を調べる学習で用いられています。

#### **【図書館まつりの開催】**

毎年、文字・活字文化の日にちなみ、ファンタスティック・ライブラリーとして、図書館まつりを開催し、子どもと本をつなぐ行事も行っています。

### 【地元鉄道会社との行事の開催】

江ノ島電鉄、湘南モノレールなど地元の鉄道会社の協力を得て、さまざまなイベントを行いました。

### 【郷土資料展の開催】

近代史資料室が「鎌倉を見つめた写真家たちー鈴木正一郎28年間の記録を中心にー安田三郎・皆吉邦雄3人展」を開催し、様々な年代の方たちによるトークセッションを行い、市内高校生も参加してくれました。

### 【地元出版社との行事の開催】

コラボ企画「本のたんじょうにたちあおう」  
内田麟太郎氏の「ませごはん」のグラ原稿を図書館で公表し、来館された方に感想などを記入していただき、出版する企画を行いました。

## (3) 課題

- 近代史資料室の子ども向けサービスについて、子どもが興味を持つような企画を検討することが課題です。
- 学習パック以外の資料についても調べ学習に役立てられるよう、地域性を生かした本の紹介リストを作成していく必要があります。

## 9. 環境整備の大切さを広く伝えるために

### (1) 主な取組み

- ① 図書館にちなんだ日「子ども読書の日（4月23日）」「こどもの読書週間（4月23日～5月12日）」「図書館月間（5月1日～5月31日）」「市図書館創立記念日（7月20日）」「文字・活字文化の日（10月27日）」など記念イベントの開催
- ① 第2次鎌倉市子ども読書活動推進計画パンフレットの作成・配布・記念行事の開催
- ③ 市広報・ホームページ・地元メディア・ちらし・ツイッターなどの活用による読書関連情報やイベントのPR
- ④ 子どもと保護者・教職員に向けた本のリストの作成や図書館のPRの充実（図書館だよりの発行など）
- ⑤ 本の紹介リストの配布、インターネットでの配信

### (2) 成果

#### 【子ども読書の日・こどもの読書週間イベント】

毎年、本の木を各館に作成し、花びらに自分の好きな本を書いて貼ってもらっています。本の空で、星空を完成させたり、洗濯物に好きな本を書いてもらったりと各館工夫しながら、企画しています。また、同時に図書館で本を探す本のビンゴを行っています。普段は手に取らない本を、このイベントをきっかけにして手にとることも目標の一つです。



(たくさん咲いた子ども本の木)

## 【第2次鎌倉市子ども読書活動推進計画の策定記念イベントの開催】

東芝科学館より講師を招いて、科学実験ショー「風船と空気deサイエンス」と工作「飛ぶ種」を開催しました。第2次計画を周知し、子どもたちには科学の本にも興味をもってもらえました。

### (3) 課題

- さまざまな媒体でイベント等のPRを行ってはいますが、さらに効果的なPRの方法を検討していくことが課題となります。
- 教職員に向けた本のリスト作成では、ニーズの把握から取り組む必要があり、今後の検討課題です。

## 10. 様々な子どもたちの読書活動のニーズにあわせたサービス

### (1) 主な取組み

- ① 録音図書等を特別支援学級や障害児活動支援センターへ貸出するサービスの実施
- ② 特別支援学校や障害児施設や図書館を利用しにくい子どもたちの家庭や地域へ訪問サービスの実施及びPRの充実
- ③ 読書についてのなんでも相談窓口（入院中の子ども達や、日本語以外の言語を母語とする子どもたち、図書館を利用しにくい子どもたちなどの読書についての相談窓口）の開設

### (2) 成果

#### 【児童向けの大活字本の収集】

玉縄図書館で大きな文字の青い鳥文庫を継続的に収集しています。

### 【様々な子どもたちの読書活動のニーズにあわせたサービス】

様々な子どもたちへのサービスとしては、特別支援学校や障害児活動支援センターへおはなし会等の訪問サービスを実施しました。

また、子ども読書パックを活用して、平成28年度には特別支援学級へ定期的に貸出が行われました。

### 【多文化サービス】

多文化サービス（日本語以外の言語を母国語とする子どもたちへの資料収集・提供）については、児童行事としてスペイン語のおはなし会、世界のわらべうた大会などの多言語おはなし会が行われました。英語のおはなし会は現在年に3回定例で市内の図書館で行われています。おはなし会に伴って、洋書の絵本などの購入も随時行われています。

なお、各館で利用者の方にお使いいただけるインターネット環境がありますので、そちらを使いながら、母語に触れていただくこともできるようになっています。



## （3）課題

○録音図書の貸出しサービスや家庭や地域への訪問サービスなど、すでに実施しているサービスについて、定期的にPRをし、必要なときに支援できる体制を築いていくことが必要です。

○様々な子どもたちの読書活動のニーズにあわせたサービスは、公共機関として常に考えていかなければいけないことであり、今後も要望の受け皿を作っていくことが課題です。

○障害のある人もない人も参加していただけるバリアフリーおはなし会として「手話付きおはなし会」や「多言語おはなし会」を実施しましたが、今後も様々なおはなし会を実施し、多くの子どもたちに本と触れ合う機会を提供していく必要があります。